埼玉純真短期大学研究論文集　第８号　PP.51-65

保育者養成校における保育内容＜言葉＞指導法の実践
－　より実践的な授業を目指して　－

A study of an instruction method of “KOTOBA”,
one of the subjects of nursery education, at a college for training nursery teacher.
－ Aiming at making more practical classes for the students －

加　藤　房　江
（こども学科　講師）

要旨　本学での保育内容＜言葉＞指導法において，保育現場の状況を踏まえ，保育者としての専門性を向上させるために実践力を高めていくことを目指した。授業実践において，幅広いジャンルの絵本等に触れながら，「絵本の読み聞かせ」「手遊び」「わらべうた遊び」「絵本ノートの作成」などを試み，アンケートのフィードバックを行った。本研究において、保育者の資質を高めることや，今後の保育者養成に役立てる若干の知見が得られたので、ここに報告する。

【キーワード：絵本の読み聞かせ　わらべうた　言葉　絵本ノート**】**

Ⅰ．はじめに

1．保育者が目指すもの

保育者養成校で保育者を目指す学生において，保育内容＜言葉＞の授業は幼稚園教諭二種免許，保育士資格取得において，必須となっている。

幼稚園教育要領や保育所保育指針では，領域＜言葉＞は，「言葉の獲得に関する領域」であり，心情・意欲・態度の面から３つのねらいが示されている。

① 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
② 人の言葉や話を聞き，自分の経験したことや考えたことを話し，伝え合う喜びを味わう。
③ 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに，絵本や物語などに親しみ，先生や友だちと心を通わせる。

子どもは，生活の中で，こころを揺り動かされる体験を通して，さまざまな思いをもつ。そして，思いが高まると，自然と気持ちを口に出したり，伝えようとするものである。保育者は，子どもが気持ちを伝えたくなるような体験ができる環境の構成や援助を心がける必要がある。その体験には子どものこころの感動が含まれている。保育者はこころの感動を待つのではなく，環境の構成や援助を工夫することが大切である[1) 2) 3)]。

また，幼稚園教育要領の保育内容＜言葉＞の内容（9）では,「絵本や物語などに親しみ, 興味をもって聞き，想像する楽しさを味わう。」としている。幼児は，絵本や物語などで見たり，聞いたりした内容を自分の経験と結びつけながら，想像したり，表現したりすることを楽しむこともあれば，教師が絵本や物語，紙芝居を読んだり，物語や昔話を話したりすることもある。教師や友達と共に様々な絵本や物語，紙芝居などに親しむ中で，幼児は新たな世界に興味や関心を広げていく。絵本や物語，紙芝居などを読み聞かせることは，現実には自分の生活している世界しか知らない幼児にとって，様々なことを想像する楽しみとなる。[1)]

保育所保育指針の保育内容＜言葉＞の内容⑪のねらいは，基本的に幼稚園教育要領の内容に準じて設定しており，絵本は環境の一つとしてたいへん重要であることが示されている。子どもの興味や発達段階に応じて，どのような絵本をどのように置いたり，扱ったりしていくのかを保育士は吟味する[2)]。

実際に絵本一つをとっても，赤ちゃんから大人まで幅広い年齢向けに，様々な内容の絵本が出版されている。子どもにとって発達段階にあった児童文化を提供することは，保育者において専門的知識が必要になってくる。それらを踏まえ，子どもの好奇心や想像力を刺激し，きめ細かくかかわりながら，適切に提供していくことが大切である。

2．保育実習における学生の様子や新任保育者の様子から

保育所実習や幼稚園実習にいくと，必ず，早い段階で，部分実習として絵本や紙芝居の読み聞かせを行う。これは，部分実習において，乳幼児を前に表現したり教えたりする経験の少ない学生にとって，短い時間で，繰り返し経験できる取り掛かりやすい課題であると考える。

筆者が保育の現場に勤務していた際に指導した実習生の中には，絵本や紙芝居に親しむ経験が少ないゆえ，絵本を選定する段階で，対象年齢に合った興味のある絵本選択に苦慮する者も多かった。また，絵本を読み込み，自分のものに落とし込んでいないため，感情を込め抑揚を付けた読み方も難しいようにも見受けられた。新任保育者においても，絵本の選定や語りにおいて，同様な場面が見られた。また，絵本の楽しさや絵の美しさ，絵が子どもに与えるイメージの重要性などに気づいていない実習生を目の当たりにすることも多々あり，これらは，取り組みにより改善される内容ではないかと感じていた部分でもあった。

読み聞かせの経験や絵本に触れる経験を増やし，絵本の知識を増やすこと。絵本の絵が子どもに与える影響も意識しながら選定出来る力を養って欲しい。そして，実践的な学びの中で，発達段階や季節により，どのような本を選定してよいかなどを学ぶことで，多少なりとも改善されるのではないかと考える。

また，読み聞かせ前の導入として，関連した手遊び，季節や理解力などに配慮した題材の選択も一つの流れとして体験して欲しいと感じた。

良い絵本を選定し，繰り返し行う読み聞かせは子どものイメージを膨らませ，子ども自身の世界に落とし込んで，熟成させる。それらが自分のものとなり，ごっこ遊びの中で繰り返し展開されるようになる。十分遊んだ経験を，生活発表会などの大勢の家族が見守る発表の場で表現できることは，普段の子どもたちの自信のある姿でもある。これは実際，生き生きと楽しく演じる子ども達の姿を見ての，筆者の体験からもいえることである。

本研究の目的は，保育者として子どもの興味や発達段階に応じて，どのような絵本を選定したらよいか専門的知識を広げること。児童文化の重要性を認識し，保育者としての実践力を身につけることが出来るかを探るものである。また，この調査から読み取れる結果と，学生の現状を踏まえ，保育者養成に対する指導のあり方を探るきっかけとしたい。

Ⅱ．方法

1．調査対象

平成25年度に保育内容＜言葉＞指導法の科目を履修した2回生111名（調査日に欠席した学生を除く・回収率80.2%）。

調査対象の学生は子ども学科乳幼児保育コースに所属し，幼稚園二種免許状と保育士資格の取得を目標としている。

15コマの授業の中で，第3回と第14回の2回について実施したアンケートの結果や自由記述の内容に基づき検討する。

2．授業実践

1）幅広いジャンルの絵本の紹介をし，絵本への興味や知識を広げる。

なるべく，幅広いジャンルの絵本の紹介をすることにより，絵本への興味を持ち，知識を広げる。時間的制約があるので，筆者から提示しないとなかなか手に取らない絵本や子ども達の好きな絵本を選択し，紹介することとした。

内容としては，「じゅげむ」川端 誠（作）クレヨンハウス，「じごくのそうべい」田島征彦（作）童心社，で知られる落語絵本。大型絵本の「はらぺこあおむし」エリック・カール（作）・偕成社のＣＤと語りを合わせて聞きながら鑑賞を行った。

また，子ども達に人気のある「ぐりとぐら」のシリーズ・中川李枝子（作）・山脇百合子（絵）・福音館書店。「ばばばあちゃん」のシリーズ・さとうわきこ・（作・絵）・福音館書店。「せんたくかあちゃん」さとうわきこ（作・絵）・福音館書店。「そらまめくん」シリーズ・なかやみわ（作・絵）・福音館書店。「だるまちゃんシリーズ」加古里子（作・絵）・福音館書店なども紹介した。

中でも興味を持ったのではないかと思われる内容は，「あまのいわと」「やまたのおろち」舟崎克彦（文）・赤羽末吉（絵）・あかね書房，などの日本の神話である。丁度この授業を実施した年は，伊勢神宮の式年遷宮と出雲大社の遷宮の時期と重なり，連日ニュースで放映されていた。その関連

から，日本の成り立ちとして古事記や日本書紀に触れ，日本神話の始まりから，現代の皇室への繋がりを知ることは，一見非現実的な話との意外性を感じたのかもしれない。

そのほかには，乳幼児向けの生活の内容やしつけの要素が含まれ，実際の保育現場で子どもに人気があり，注目する絵本と合わせて，読み聞かせていた場面の紹介を行った。

また，学生が交替で行う絵本の読み聞かせにおいては，自分にあった読み易い絵本をよく吟味しながら選択している。友達の選んだ絵本を読み聞かせしてもらう側になり，よりたくさんの絵本に触れることは勿論のこと。子どもの気持ちになり，語りの速度や抑揚の付け方，聞きやすさを客観的に学べる利点がある。

2）絵本ノートの作成を課題とする。

第１回目の授業において，絵本ノートを作成することを伝えた。作成する利点を挙げて，モチベーションを上げることで，作成途中の困難さを乗り越えることが出来るようにしいてくことが目的である。また，学生であるこの時間はとても貴重であり，保育の現場に出てからでは，なかなかまとまった時間は取れないので，なるべく多くの絵本に触れることを伝え，これが現場に出たときの実践力になることを強調した。

絵本ノート形式は，①絵本のタイトル，②絵本ノートの枚数の連番を記入，③選んだ本の情報として，作者，出版社，出版年，対象年齢　④あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）⑤ 印象に残ったシーン⑥この本からのメッセージ（イラストや折り紙などいろいろな画材で表現する）。この６つ項目から成り立っている。

絵本ノートを作成する利点として挙げたのは，たくさんの絵本に触れることで読み聞かせをするときに実際の子どもの理解力に配慮した題材を選択する能力が高まることである。この力は，子どものイメージを広げ，絵本をもっと読みたいという意欲を高めることに繋がっていく。幼稚園教育要領の内容の取り扱い（3）においても，「絵本や物語などで，その内容と自分の経験とを結び付けたり，想像を巡らせたりするなど，楽しみを十分に味わうことによって，次第に豊かなイメージをもち，言葉に対する感覚が養われるようにすること。」「幼児は，絵本や物語などの中に登場する人物や生き物，生活や自然などを自分の体験と照らし合わせて再認識したり，自分の知らない世界を想像したりして，イメージを一層豊かに広げていく。そのために，絵本や物語などを読み聞かせるときには，そのような楽しさを十分に味わうことができるよう，題材や幼児の理解力などに配慮して選択し，幼児の多様な興味や関心に応じることが必要である」[1] とある。

絵本ノートを作成する利点をまとめると次のようになる。

・絵本をよく読んで，内容を理解した上で，文章をまとめるので，要約力がつく。
・絵を描くことによりイメージが豊かになり，表現力が向上する。
・「年齢・季節・活動」を考慮した上で，絵本を選定する判断力が養われる。
・絵本を読みながら「子どもに伝えたいこと」を考え，子どものイメージを膨らませることができる。
・絵本をたくさん読むことで，絵本の世界に慣れ親しむことができ，知識や理解力が身につき，感性が磨かれていく。
・絵本を見ただけで，どんな絵本か思い出せる。
・絵を見ただけで，同じ作者が分かる。
・絵本ノートを作成してきた持続力，達成感が自信となり，仕事への意欲に繋がる効果がある。

絵本ノート作成上のルールとして，絵本ノートの提出枚数は，２年次の後期15コマの授業期間中，添削して返却する期間も含めるので，14コマの授業期間の範囲で行い，最低でも15枚以上を仕上げること。出来上がったら随時提出し，確認してもらうこと。提出期限を厳守することとした。

内容が良く，芸術的にも高い作品は，皆の前で褒め，意識を高めるとともに，他の学生に参考になるよう授業中に展示を行った。なお，完成し提出された絵本ノートは評価にも大きく影響することを伝え，モチベーションを上げるようにしていった。

3）絵本の絵についても，意識して選定する。

藪中（2012）の先行研究において，「同じ昔話絵本でもマンガ版絵本を用いたときよりも，復刻版絵本を用いた時に，5歳児は多くのことばを発し，想像力を促進させることが明らかとなった。」これは、中澤ら（2005）が明らかにした研究結果を支持するものであった。また，藪中（2012）は、「抽象的な絵からは感想の発話は得られなかったが，詳細で写実的な絵からは，感想の発話が抽象的な絵に比べて多くみられた。このことは，絵が詳細に描かれていることにより，登場人物に対するイメージが促進され，感想の発話が多くなったと考えられる。

線や形を中心とした抽象的な絵からは，幼児の発話を多く引き出すことが難しく，言語化が困難なために感想の発話が一切なかったのであろう。このことから，抽象的な絵は，登場人物に対するイメージの広がりもあまり認められず，幼児の発想力の妨げになったのではないかと考えられる。

同じ昔話絵本でも絵の違いが幼児の発話に影響を及ぼすことから，幼児に与える絵にも注目し，慎重に選択することがもとめられであろう。

このように，絵の印象が異なることによってその絵本によって育まれる幼児の心情・意欲・態度が異なることを認識し，保育のねらいに即した適切な絵本を選択することが，保育者に望まれることである。」と述べている。[4)]

授業においても，同じ内容の絵本（特に昔話絵本）でも，絵が詳細に描かれている絵本と線や形を中心とした抽象的な絵の絵本との比較を行い，子どものイメージの広がりや発話の様子を予想し，絵本の選定においての参考として，意識するように伝えた。

4）手遊びやわらべうたの定着を図る。

手遊びやわらべうたに関しては，何度か教えたのみだと，実践で使うには難しいと考えるので，必ずプリントを配布する。次回の授業では，前回行った手遊びやわらべうたを交え新しいものを加える。一定の時間を空けて行うことでの定着を図る。また，グループでの活動などで，繰り返し演じる機会を設けた。

わらべうたの歴史的流れについて，鵜野・落合（2010）はこう述べている。「日本のわらべうたは，古くは，生産活動の中心は農業であり，生活のよりどころは「いえ」であった。家族の形態は時代，地域，階層によって大家族から小家族まであったが，それぞれの家族の中でわらべうたがうたわれていた。一方，仏教の影響により，仏教童謡から物語童謡への広がりをみることが出来る。大人と子どもが文化を共有する中から子どもの遊びが生まれ，供与されていった。中世のわらべうたは，今日まで伝わるわらべうたの源流の時代となっていると言えるだろう。」[5)]

しかし，保育現場の伝承歌遊び（わらべうたを含む）の取り組み状況においては，横田(2011)の研究結果により、「幼稚園・保育園における地域との関わりが希薄化しており，伝承歌あそびの取り組み状況の減少とも関連していることが明らかになった。」と述べている[6)]

また，「伝承遊び（わらべうた）においても，それぞれの時代や生活環境を反映しつつ育まれてきたものであり，現代のこどもたちにおいても，これらを受け継いでいく役割は重要である。保育者はこのことを充分に認識し，これからの社会を担う子ども達に生活（あそび）を通して、積極的に導入する環境づくりを重点的に進めていくことが必要である。」と述べている。[6)]

歴史手的背景を紐解くと、長い時間の中で，大人と子どもが文化を共有する中から，生まれきたわらべうたや伝承遊びは貴重である。このことから、これらの次の担い手としての保育者の役割は大きいと言える。わらべうたや伝承遊びを体験することにより，子ども達に伝えるためのきっかけ作りと考えた。

5）言葉を豊かにする遊び，文字指導について

言葉の教育の課題として，幼稚園・保育所の場合を福沢（2006）は，次のように述べている。「幼稚園や保育所では，幼児の社会性を発達させることが重要な課題になる。小学校へ入ることによって，話し言葉（音声言語）の世界から書き言葉（文字言語）の世界へ入らざるを得ないが，そこでの適応力の有無には，幼児期における話し言葉の充実の有無がかなり関係する。話し言葉をしっかりと身につけさせることが，幼稚園でも保育所でも，重要な課題になるのである。さらに，乳幼児期という人生の序章を考えると，この時期に，言葉および言葉を使う活動に対する興味や関心，また，

態度や意欲を養うことも大きな課題として位置づけられる」[7]。

子どもと保育者の信頼関係の中から生まれる言葉の丁寧なやりとりや「環境の準備」「見守り，待つ」ことの保育者の役割の重要性とともに，保育現場の実践例を挙げてみた。

保育現場の実践例。

＜１＞日々の生活の中で「必要感」に基づいた文字の実践例の紹介。

年齢ごとの環境としての，文字・マーク・写真などの併用例。遊びやゆうびんやさんごっこについて。新しく覚えたい歌について。お泊り保育の準備や栞について。クリスマス会のプログラムから。園の菜園での野菜栽培の様子などから。

＜２＞親子かるたの作成

親子参観日に親と子の共同制作で，親子かるたの作成を行う。A4サイズほどの画用紙にアイディアを出しながら，それぞれ読み札と絵札を制作し，終わりに親子合作の作品で，かるたとり大会を楽しむものである。

＜３＞文字指導について

体験と文字・数などが結び付いた指導や注意点など。

＜４＞保育室において季節や年齢別の絵本の展示や交換時期など。

＜５＞読み聞かせ前の導入として

関連した手遊び，季節に関連したお話などを年齢別の内容において行う。

Ⅲ．結果

アンケートの質問項目は，次の①～⑩である。

さまざまな絵本の紹介による効果の質問

①以前より，絵本に触れる数は増えましたか。

②いろいろなジャンルの絵本を読んでみたいと思いますか。

・興味を持った内容を記述する。

絵本ノートを作成する上での利点として，効果があったかどうかの質問

③絵本をよく読んで理解した上で，文章をまとめることで，要約力・表現力が向上し，絵も上手になってきましたか。

④「季節」や「活動」「年齢」を考慮した上で，選定する判断力が培われてきましたか。

⑤絵本を読みながら「子ども達に伝えたいこと」を考え，子どもの立場を想像出来るようになってきましたか。

⑥絵本をたくさん読むことで，絵本の世界に慣れ親しむことができ，感性が磨かれ，知識や理解力が身についてきましたか。

絵本を選定するとき，絵についての質問

⑦絵本を選定するとき，絵本の絵も意識して選択しましたか。

手遊びやわらべうたの定着を図る効果があったかの質問

⑧子どもに伝えたい手あそびやわらべうたは増えましたか。

・実際に行ってみた感想を記述する。

⑨読み聞かせ前の導入として，関連した手遊びや言葉がけを意識しましたか。

⑩読み聞かせは上手になってきましたか。

・実際に行ってみた感想を記述する。

さまざまな絵本の紹介による効果の質問としての結果をグラフにしたものを図1，図2として掲げる。

図1「絵本を読む数は増えましたか」の質問に対し，1回目のアンケート結果は，「少し読んだ（5～10冊）」が最も多く，「読むようになった（10～30冊）」と「たくさん読んだ（30冊以上）を合わせると47，2％である。

2回目のアンケート結果においては，「読むようになった（10～30冊）」が最も多く，「たくさん

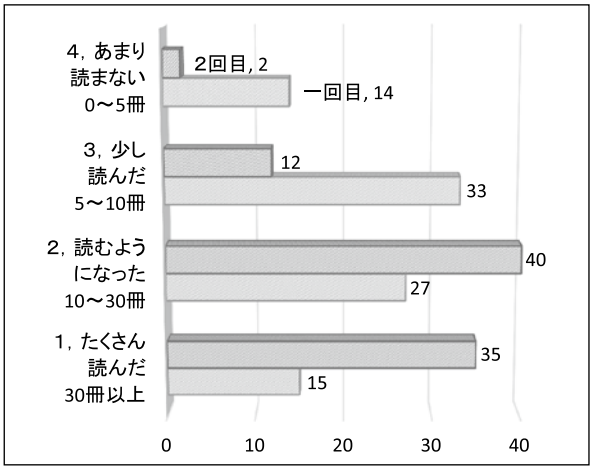


図１　絵本を読む数は増えたか

読んだ（30冊以上）」を合わせると全体の84.2％となり、１回目と比較すると２倍近い学生が絵本を多く手に取る結果が示された。

図２の「いろいろなジャンルの絵本を読んでみたいと思いますか。」の質問に対し，１回目のアンケート結果は，「機会があったら読みたい」が最も多く46％であった。「読んでみたい」が30.3％であり、「たくさん読んでみたい」の16.9％と合わせると47.2％という結果になった。

２回目のアンケート結果においては，「読んでみたい」が最も多く55％であり、次いで「たくさん読んでみたい」の25.8％と合わせると、80.8％と絵本により興味を持つ結果になった。

興味をもった絵本としては，「昔話絵本」「食べ物の絵本」「子ども参加型の絵本」「動物の絵本」「素話で表現できる絵本」「ハッピーエンドで終わるお話」「絵がきれいな絵本」「子ども達が見て，興味を持つ楽しい絵本」「しかけ絵本」などを挙げていた。

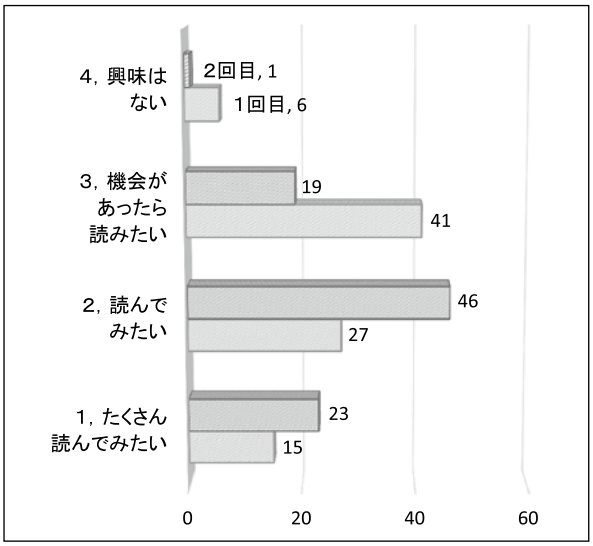


図２　いろいろなジャンルの本を読んでみたいか

絵本ノートを作成する上での利点として，効果があったかどうかの質問としての結果をグラフにしたものを図3，図4，図5，図6として掲げる。

図３「絵を描くのが上手になってきたか」の質問に対し，１回目のアンケート結果は，「まだ分からない」が38.2％で最も多かった。「少し効果があった」は36％である。「効果があった」の23.6％と「非常に効果があった」の2.2％を合わせると25.8％であった。

2回目のアンケート結果においては，「効果があった」が全体の56，2％を占めており，「非常に効果があった」の13.5％と合わせると69.7％となり，枚数を描くことで効果が上がってきた結果が示された。

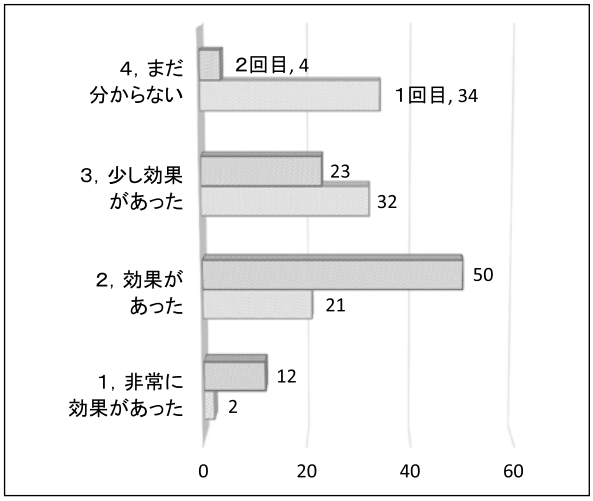


図３　絵を描くのは上手になってきたか

図４「季節や活動，年齢を考慮した上で，選定する判断力が培われてきましたか」の質問に対し，１回目のアンケート結果は，「少し効果があった」が最も多く41.6％であった。「効果があった」は34.8％であり、「非常に効果があった」の3.4％を合わせると38.2％であった。

2回目のアンケート結果においては，「効果があった」が56.2％で最も多くなっており，「非常に効果があった」の15.7％と合わせると全体の71.9％が効果を実感した結果となった。

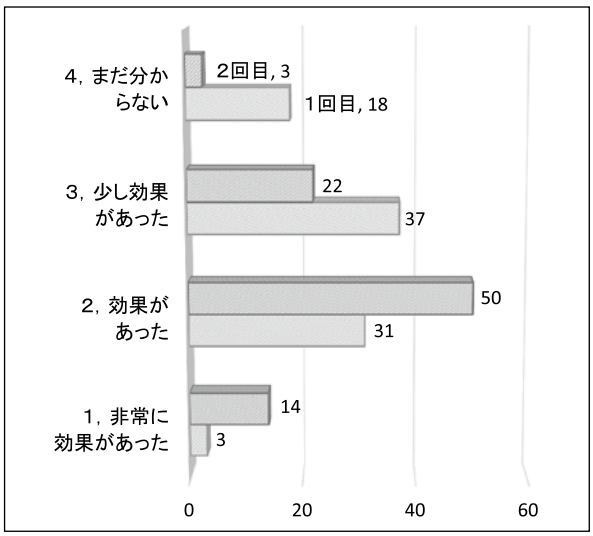


図４　季節や活動，年齢を考慮した上で選定した判断力が培われてきたか

図５「絵本を読みながら＜子ども達に伝えたいこと＞を考え，子どもの立場を想像出来るようになってきましたか」の質問に対し，1回目のアンケート結果は，「まだ分からない」34.8％，「少し効果があった」32.6％とほぼ同じような結果になった。それに次いで，「効果があった」が25.8％であり，「非常に効果があった」の6.7％と合わせると32.5％となった。

2回目のアンケート結果においては，「効果があった」が55.1％と最も多い結果となり，「非常に効果があった」の19.1％と合わせると全体の74.2％が効果を実感した結果となった。もともと，子ども主体の視点で読み聞かせを意識していた学生もいるが，それ意外の学生も，自分を主体として読み聞かせることに焦点を合わせていたのが，子どもを主体として意識してきた様子の現れである。

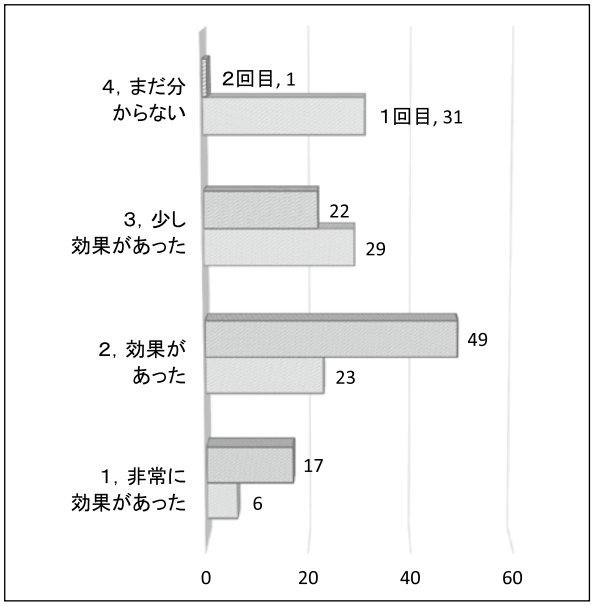


図５　子どもに伝えたいことを考え，子どもの立場を意識するようになってきたか

図６「絵本をたくさん読むことで，絵本の世界に慣れ親しむことができ，感性が磨かれ，知識や理解力が身についてきましたか」の質問に対し1回目のアンケート結果は，「少し効果があった」34.8％であった。「効果があった」が33.7％であり，「非常に効果があった」の13.5％と合わせると47.2％となった。

2回目のアンケート結果においては，「効果があった」が55.1％で最も多く，「非常に効果があった」の23.6％を合わせると78.7％となった。個人差はあるものの，絵本に対しての知識や理解力，感じる心が磨かれてきた効果の表れが示された結果となった。

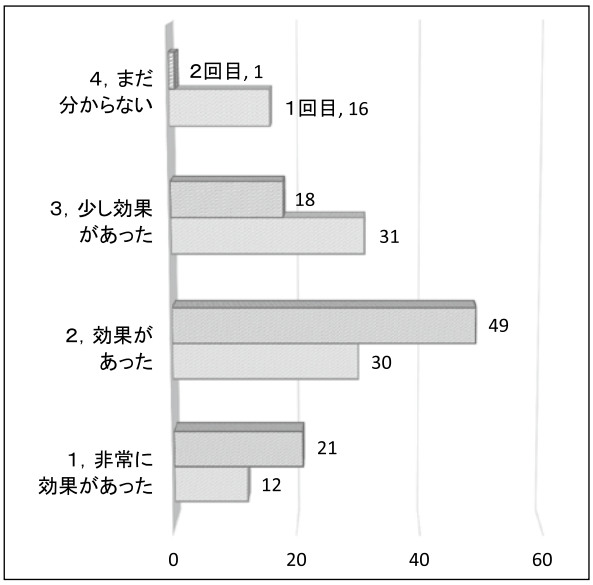


図６　絵本の世界に慣れ親しみ，感性が磨かれ，知識や理解力が身についてきたか

図７「絵本を選定するとき，絵本の絵も意識して選択しましたか」の質問に対し，1回目のアンケート結果は，「意識していない」が44.9％と最も多く，「少し意識するようになった」36％であった。それに次いで，「かなり意識している」が16.9％であり，「絵を意識して選定できるようになってきた」の2.2％と合わせると19.1％と低い結果となった。

２回目のアンケート結果においては，「かなり意識している」が全体の56.2％を占めていて最も多く，「絵を意識して選定できるようになってきた」の13.5％を合わせると69.7％となった。「少し意

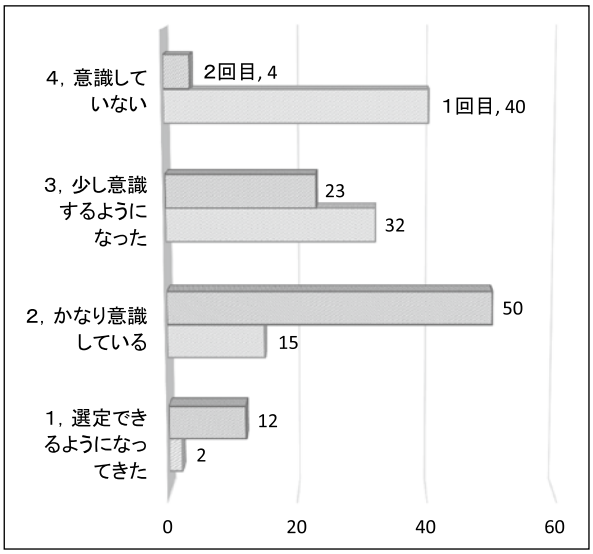


図７　絵本を選定するとき，絵も意識して選定したか

識するようになった」においても31.5％となり，今まで，感覚的に選んでいたものが同じお話の絵本を見比べたり，絵本の絵の重要性を意識してきた結果が示された。

手遊びやわらべうたの定着を図る効果があったかの質問としての結果をグラフにしたものを図8，図9，図10として掲げる。

図8「子どもに伝えたい手あそびやわらべうたは増えましたか」の1回目のアンケート結果は,「少し知っている」が39.3％と最も多く，次の「わりと知っている」は30.3％であり，「たくさん知っている」の13.4％を合わせると全体の43.7％と手あそびやわらべうたへの興味の高さが伺えるが，「ほとんど知らない」学生も17％おり，両極端な結果が分かった。

2回目のアンケート結果においては,「わりと知っている」が44.9％と最も多く「たくさん知っている」の39.3％を合わせると，全体の84.2％と高く，学生の最も興味のある内容がそのまま結果に現れた。

＜学生の感想から＞

「授業の合間に手遊びやわらべうたなどをやったので，気分転換になった。」

「知らない手遊びがたくさん覚えられたので，保育現場で活用したい。」

「プリントを配布してもらったので，忘れた時もあとから見返すことが出来るのでよかった。」

「手遊びなどを見せてもらったり，皆と一緒に覚えるのは楽しいが，実際に保育現場に出た時，恥かしがらずにやれるか，心配である。」

「子どもを前にしたとき、場面に合った手遊びがさっと頭に浮かんで、出来るだろうか」などの記述があった。前向きに取り組んだ様子が伺えたが，保育の現場に出てからの不安な気持ちも現れていた。

図9「読み聞かせ前の導入として，関連した手遊びや言葉がけを意識しましたか」の1回目のアンケート結果は,「意識していない」が42.7％と最も多く,「少し意識するようになった」が33.7％であった。それに次いで,「かなり意識している」が21.3％であり、「意識して効果的に表現できる」の2.2％を合わせても23.5％と低い水準であった。絵本や制作の説明の前の手遊びは，場面にもよるが，実習のみの経験であったので，関連性の意識が薄かったのではないかと推察される。

2回目のアンケート結果においては,「かなり意識している」が全体の48.3％を占めていて最も多く,「意識して効果的に表現できる」の13.5％を合わせると61.8％と高い水準の結果となった。ねらいについて意識した話や手遊びを考えようとする結果が示された。

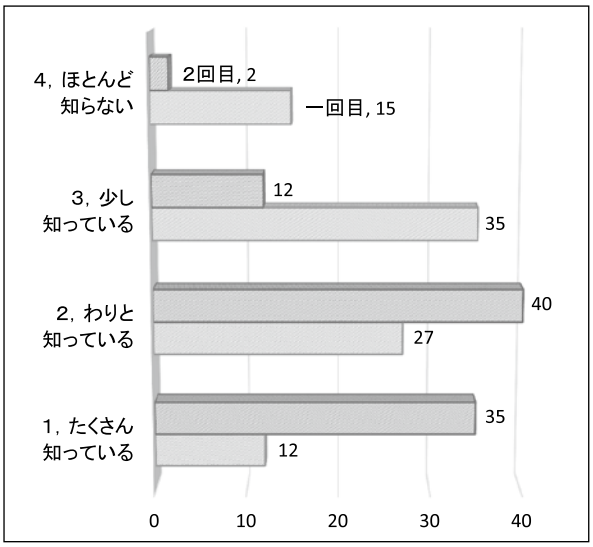


図8　子どもに伝えたい手遊びやわらべうたを知っているか

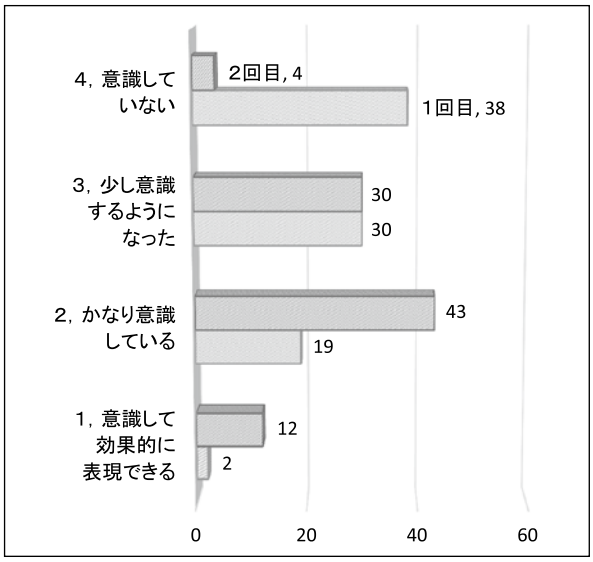


図9　読み聞かせの導入として，関連した手遊びや言葉がけを意識したか

図10「読み聞かせは上手になってきましたか」の1回目のアンケート結果は,「まだ練習が必要」が41.6％と最も多く,「少し上手になった」が31.5％である。「上手になってきた」も31.5％と同等の割合で,「だいぶ上手になった」の4.5％と合わせると36％となった。

2回目のアンケート結果においては,「上手になってきた」が49.4％と最も多く,「だいぶ上手になった」の13.5％と合わせると62.9％となった。「少し上手になった」が25.8％と「まだ練習が必要」が11.2％をあわせると37％という結果になった。上手になってきたものの自信をもって読み聞かせが出来るまでには至っていない様子が読みと取れる。

＜学生の感想から＞

「初めは読み聞かせをするのが，恥ずかしかったが，友達同士数人で行う時間もあったので，徐々に慣れていった。」

「友達の読み聞かせをしてくれた絵本を自分でも読み聞かせしたいと思った。」

「クラス全員の前で抑揚をつけて読むことは，恥ずかしいが園児の前なら出来るかもしれない」

「いろいろな種類の絵本があることが分かった。」

「たくさん練習して，園児の前で上手に読み聞かせが出来るようになりたい。」という記述などがあり，少しずつ上達しながらも，クラス全員の前で読み聞かせをするのは，恥ずかしさがあることが伺えた。また,絵本も種類が豊富にあることを知り,友達の絵本の選定も参考になったと思われる。

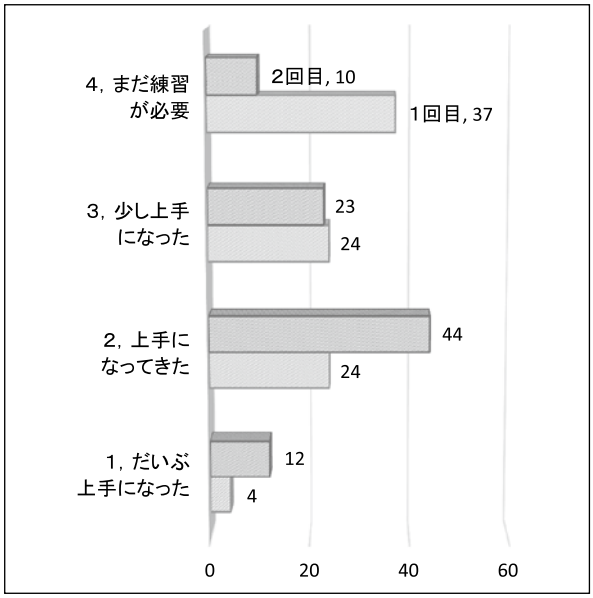


図 10　読み聞かせは上手になってきたか

言葉を豊かにする遊び，文字指導については，保育現場においてどのような遊び・方法を試してみたいか。

＜学生の感想から＞

「ゆうびんやさんごっこやお店やさんごっこなどのごっこ遊びなどで文字を使ってみたい」

「かるた作りから遊びへなど，遊びながら文字に親しませたい」

「普段の生活の中で，文字に関係する絵やマークと一緒に見せることで，子ども達が文字に興味を持つと感じた。」

「写真を提示する。歌の歌詞，プログラム，おもちゃや道具，植物の栽培などの立て札でなどを参考にしたい」

実際に保育者として仕事をしていくときのイメージ作りになった感想も見受けられた。

Ⅳ．考察

本研究の課題の一つである「広いジャンルの絵本の紹介をすることにより，絵本への興味を持ち，知識を広げる。」においては，アンケート結果に掲げた図１，図２に見られるように一定の効果が見られた。教員や学生同士,絵本ノートの作成により,学生一人では手に取らなかった絵本との出会いがあったと推察される。読んでいる冊数としては,それほど多いものではないが，意識して身近に絵本を置くことで，効果が得られたと推察される。そして，良書を手に取り，楽しむことは，保育者として子どもと共に成長し，子どもの発達段階にあった児童文化を提供し専門性を磨く第一歩と考える。また,「いろいろなジャンルの絵本を読んでみたいと思いますか。」という質問に対し，１回目の「機会があったら読んでみたい」が最も多かったのに対し，２回目になると「読んでみたい」が一段と多くなり，受動的な関わりから，能動的な関わりへの変化が見られ，これは積極的に様々な絵本を読もうとする姿の表れだと感じた。

方法の２）の一番学生が時間をかけた絵本ノートの作成においては,授業時間以外での作業となっていた。仕上がった絵本ノートには連番を振るよう伝えてあり，自分の進捗状況が分かっていたが,絵や文章をまとめるのが苦手な学生にとっては,負担感が見受けられた。一方，絵本が好きで，絵画などの表現を得意とする学生は，色鉛筆で繊細なタッチで描き芸術性の高い作品の出来栄えであった。また,画材の毛糸や折り紙,光沢のあるシー

ル仕掛けを駆使したものなど，きれいに仕上げて提出した。できた作品から順次提出するよう指示してあったので，個々の作品の良いところなどを褒めて，授業の時間に作品を飾っておいた。このことで，取り掛かりの遅い学生にとっては多少なりとも刺激になったと考える。

絵本ノートの最後の提出に関しては，評価との関連もあるので，全員提出出来たが，3名については，期日より数日送れての提出となった。期日については，授業の初めから，重要であることを伝え，保育の現場においても繋がることなので，くり返し強調してきただけに残念であった。

方法の3）の「絵本の絵についても，意識して選定する」においては，実際に赤ちゃんから大人まで幅広い年齢向けに，様々な内容の絵本が出版されている。小さい子向けには柔らかなタッチで描かれているものも多い。絵を意識して選定するのには，難しい部分もある。しかし，あかちゃん絵本で人気のある食べ物の絵などは繊細なタッチで描かれており，思わず「たべたいな」という気持ちにさせる。また，特に昔話においては，力強い躍動感のある絵が詳細に描写されたものは，想像力を促進させ，子ども達に発話が増えていくというイメージを持った。それを抽象的な絵のマンガ絵本と復刻版絵本との比較により，学生が実体験することで，復刻版絵本の良さや選定の際に絵を意識することに繋がっていったと考える。

方法の4）番目の「手遊びやわらべうたの定着を図る」に関しては，初めから学生の取り組みとして積極的であった。座学で睡魔に襲われても，そこから切り替え，楽しみながら参加し覚えていった。

感想にもあったが，「知らない手遊びがたくさん覚えられたので，保育現場で活用したい。」という意見と「実際に保育現場に出た時，恥かしがらずにやれるか心配である」という意見も多かった。特にわらべうたに関しては，馴染みが薄いこともあり，実際の保育現場で先輩たちがやっていなさそうなのでやりにくいと感じているようだ。しかし，それも現場の保育経験が解決してくれると信じ，「わらべうたを知っている」「経験したことがある」ということが，子ども達に伝える上で，身近なものになっていくと考える。

絵本の読み聞かせのねらいとしては，声を出して丁寧にゆっくりはっきり読むことでお話の内容や文章を理解し，頭の中でイメージを描く。そして，感情を受けとめることで心を豊かに育み，感動を育てる。また，読書の基礎能力を養い，読書に興味関心を持たせ，読もうとする意欲を起こさせる効果がある

しかしながら，もっとたくさん学生によみ聞かせや手遊びわらべうた遊びなどをプレゼンする機会を設けたかったが，時間の都合上難しかった。

方法の5）の「言葉を豊かにする遊び，文字指導について」

特に乳児期においては，子どもの言葉の発達段階や環境の重要性を踏まえて，養育者の温かい肉声による言葉がけが大切になってくる。そのための「やりとり」を広げていく場面に応じての言葉がけ，遊び，あかちゃん絵本の活用事例を挙げてきた。

また，日々の生活の中で「必要感」に基づいた文字の実践例の紹介のなかでは，日々の保育の中でのマークや文字，写真との組み合わせの環境の様子をパワーポイントによる学習を試みた。文字指導としては，覚える文字と子ども達の身近な物との対応を図りながら行う指導が大切であることを強調した。

また，言葉や文字遊びとして，「お手紙ごっこ」や「伝言ゲーム」の体験を試みた。これらは，データとしては，掲げることは出来ないが，熱心に聴き，メモを取る場面や楽しくゲームに参加していた学生の姿から，保育現場での実践を期待したい。

V．結論

本実践は，筆者の保育現場での経験と実習生や新任保育者との交流の中で，感じてきたことと，本学学生との実態を受け止め，実践力を高められる授業展開を目指したものであった。

「いろいろなジャンルの絵本にたくさん親しむ」「絵本の読み聞かせ」「絵本の絵についての意識」「絵本ノート」の実践で，学生たちは，絵本や本そのものに新たな視点をおき，幼いころとは違ったストーリーを深く読み取ろうとする感情を見出した。また，絵本を読み込んでまとめていく作業の中で，

要約力・表現力・描写力・感受性・理解力を促進させることが，本研究で明らかとなった。この結果は，村上(2007)の研究を支持するものになった[8)]。

また，学生が選定した絵本や筆者自身が選定した絵本を知ることにより，絵本の世界が広がり，絵本の選定において，絵本の絵を見ただけで，作者が分かり，素早い判断力を身に付けるのに役立つと思われる。それに加え，学生の前での読み聞かせを繰り返すことで，自信がつき，読み聞かせの力が向上してきたことは，保育現場において，即戦力となっていく。また，繰り返し覚え身に付けた「手遊び」や「わらべうた」は，子ども達を前にしたときすぐに実践でき，体験から自信へと繋げていって欲しい。繰り返し，絵本ノート作成していくうちに，学生自ら，絵本に関連した手遊びや絵本の後の活動のねらいを意識した絵本の選定において上達を感じたことは，一定の効果があったと感じる。

そして，この体験が生かされ，絵本等は大切な財産という認識を持ち，保育者として少しでも指導力に結びつき，豊かなイメージや感性に結びついていくのではないかと考える。

しかしながら，限られた授業時間とその中の学びの内容だけでは，限界もある。

これから，子ども達を前にし，良い絵本を手にしたとき，抑揚をつけて上手に表現することで，イメージが広がる語りとなり，子ども達の言葉に対する感覚が培われることを期待したい。そして、専門職としての学びの大切さや子ども達を前にしたときに真摯な気持ちを持ち，個人個人の向上心を持ち続けて欲しいと願う。

また，保育者養成のために，実際の現場において活躍できる保育者を生み出していくためには，どのような方法が良いのか今後も考察を深め，参考としていきたい。

謝辞
アンケートにお答えくださった学生の皆様に感謝申し上げます。

引用文献

1） 文部科学省.幼稚園教育要領解説書　2008, p.138，p.149.

2） 厚生労働省.保育所保育指針解説書　2008, p.88，p.94-95.

3） 松川利広監修　横山真貴子編，開 仁志，保育出版社. 子どもの育ちと「ことば」. 2010, p.78.

4） 藪中征代.　昔話絵本の絵が幼児の理解および作話に及ぼす影響.聖徳大学研究紀要 聖徳大学　第23号　聖徳大学短期大学　第45号. 2012,　p.9.

5） 中澤潤・中道圭人・大澤紀代子・針谷洋美. 絵本の絵が幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響.千葉大学教育学部研究紀要. 2005, 53, p.193-202.

6） 鵜野佑介 監修　落合美知子 著　子どもの心に灯をともす わらべうた ―実践と理論― エルディ研究所. 2010, p.30.

7） 横田みぎわ.　幼稚園・保育園における伝承あそびの実施状況についての一考察(3).目白短期大学大学部研究紀要.2007　第43号, p.198.

8） 福沢周亮. 改訂版 言葉と教育　財団法人　放送大学教育振興会. 2006, p.32―33.

9） 吉元昭治.日本全国　神話伝説の旅　勉誠出版. p.2008.

10） 村上詠子.　発達段階に応じた読書指導法　―その内容と指導法―
目白短期大学大学部研究紀要. 2007　第43号, p.92.

参考文献

榎沢良彦，入江礼子.　シートブック　保育内容言

葉〔第2版〕建帛社．2012

小山祥子. 幼児教育史における「おはなし」の受容と変容　駒沢女子短期大学　研究紀要. 2011,　第44号.

和田典子. 小学校「国語」への連携と幼児期の文字指導について　－小学校指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針の改正を踏まえて－　近畿医療福祉大学紀要. 2008,　Vol9.

千古千恵子. 保育内容「言葉」に生かす「文化」の伝承　京都文京短期大学紀要. 2008,　47.

＜使用絵本＞
川端 誠（作）
「じゅげむ」. クレヨンハウス. 1998.

田島征彦（作）
「じごくのそうべい」童心社．1987.

エリック・カール（作）
「はらぺこあおむし」・偕成社．1989.

中川李枝子（作）・山脇百合子（絵）
「ぐりとぐら」．1967
「ぐりとぐらのおきゃくさま」. 1967.
「ぐりとぐらのかいすいよく」. 1977.
「ぐりとぐらのえんそく」. 1983.
「ぐりとぐらとくるりくら」1992. 福音館書店.

さとうわきこ・（作・絵）
「いそがしいよる」. 1989.
「あめふり」. 1987.
「よもぎだんご」. 1989.
「すいかのたね」. 1987.
「たいへんなひるね」. 1990. 福音館書店.

さとうわきこ（作・絵）
「せんたくかあちゃん」. 1982. 福音館書店.

なかやみわ（作・絵）
「そらまめくんのベッド」. 1999.
「そらまめくんとめだかのこ」. 2000.
「そらまめくんからおめでとう」. 2013.
福音館書店.

加古里子（作・絵）
「だるまちゃんとてんぐちゃん」. 1967.
「だるまちゃんとかみなりちゃん」. 1968.
「だるまちゃんとだいこくちゃん」. 2001.
「だるまちゃんとてんじんちゃん」.2006.
福音館書店.

舟崎克彦（文）・赤羽末吉（絵）
「あまのいわと」. 1995.
「やまたのおろち」.1995. あかね書房.

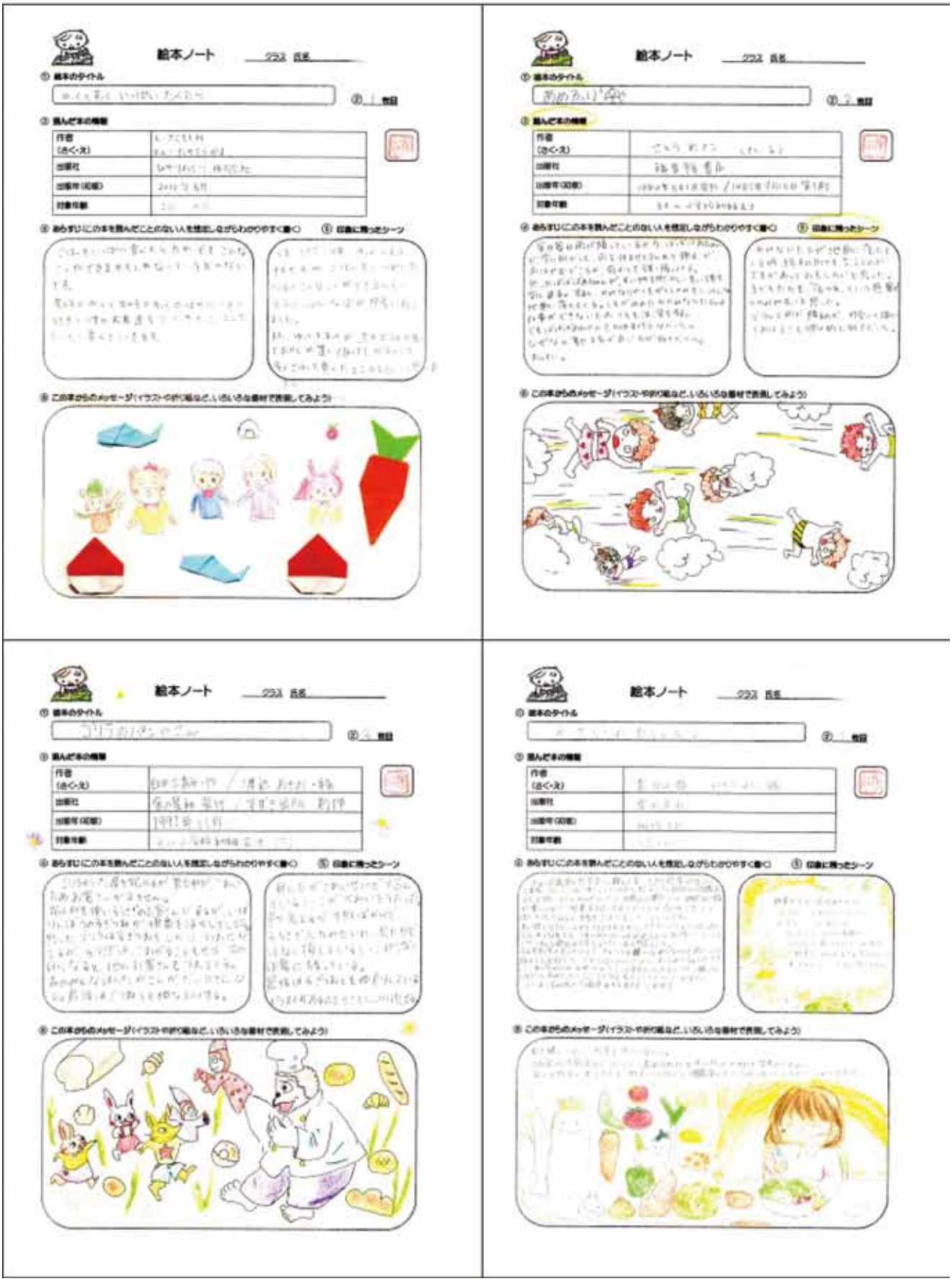
三浦佑之（著）.絵で見る世界の名作 イラスト図解　古事記　―神がみの物語―.PHP研究所. 2008.

井川洗がい（作）猿蟹合戦　新・講談社の絵本. 2001.
柿沼美浩（文）井口忠一（絵）．日本昔話　アニメ絵本　さるかにばなし. 2010.

井筒頼子（作）.林明子（絵）
「はじめてのおつかい」. 1977.
「とんことり」. 1989. 福音館書店.

きむらゆういち（作・絵）
「ごあいさつあそび」．1988.
「はみがきあそび」．1998.
「いただきますあそび」．1988.
「いないいないあそび」．1988.
「ひとりでうんちできるかな」．1989.
偕成社

絵本ノート



絵本ノート　クラス　氏名

① 絵本のタイトル

② 1 冊目

③ 読んだ本の情報

作者（さく・え）	
出版社	
出版年（初版）	
対象年齢	

④ あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）　⑤ 印象に残ったシーン

⑥ この本からのメッセージ（イラスト・やり取りなど、いろいろな素材で表現してみよう）

絵本ノート　クラス　氏名

① 絵本のタイトル

② 2 冊目

③ 読んだ本の情報

作者（さく・え）	
出版社	
出版年（初版）	
対象年齢	

④ あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）　⑤ 印象に残ったシーン

⑥ この本からのメッセージ（イラスト・やり取りなど、いろいろな素材で表現してみよう）

絵本ノート　クラス　氏名

① 絵本のタイトル

② 3 冊目

③ 読んだ本の情報

作者（さく・え）	
出版社	
出版年（初版）	
対象年齢	

④ あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）　⑤ 印象に残ったシーン

⑥ この本からのメッセージ（イラスト・やり取りなど、いろいろな素材で表現してみよう）

絵本ノート　クラス　氏名

① 絵本のタイトル

② 4 冊目

③ 読んだ本の情報

作者（さく・え）	
出版社	
出版年（初版）	
対象年齢	

④ あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）　⑤ 印象に残ったシーン

⑥ この本からのメッセージ（イラスト・やり取りなど、いろいろな素材で表現してみよう）

絵本ノート　クラス　氏名

① 絵本のタイトル　14ひきのかぼちゃ

② 1 枚目

③ 読んだ本の情報

作者（さく・え）	さく いわさきちひろ
出版社	株式会社 童心社
出版年（初版）	1987年4月25日
対象年齢	3歳から～

④ あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）

14ひきのあそびの母親がかぼちゃの種を持ってきて、かぼちゃの育てることになりました。やがて芽をだしたかぼちゃはぐんぐん大きくなりあそびもどんどんなり収穫の時期になります。子ども達が大切に育てたかぼちゃはおいしい料理にして食べました。自然の恵みについて14ひきのあそびが教えてくれるお話です。

⑤ 印象に残ったシーン

大きくなったかぼちゃを14ひきのあそびがでっぱを運んだりかぼちゃに穴をあけ中から実を取り出したり、顔を出している子がなんとも可愛いこのシリーズは細い線で、いたる所にほっこりやさしさがにじみでていて表紙の白地が季節感を味わえる。

⑥ この本からのメッセージ（イラストや折り紙など、いろいろな素材で表現してみよう）

絵本ノート　クラス　氏名

① 絵本のタイトル　たまごのあかちゃん

② 1 枚目

③ 読んだ本の情報

作者（さく・え）	ゲルダ・とみこ・ボル やぎゅう げんいち・訳
出版社	福音館書店
出版年（初版）	1987年4月1日
対象年齢	2才向け

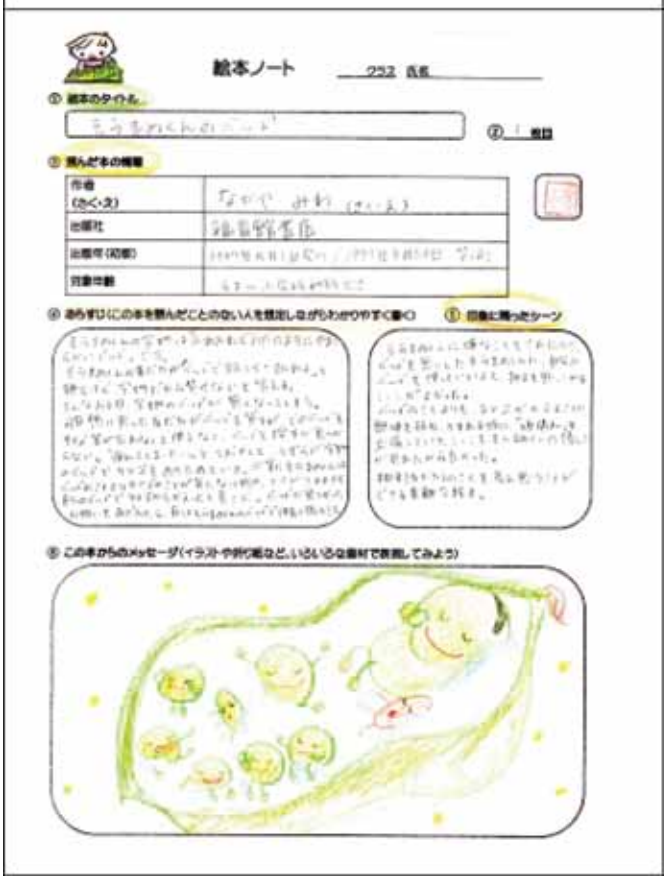
④ あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）

小さなたまご、大きなたまご。
1つだけのたまご　たくさんあるたまご。
そのなかから　色々な種類の動物の赤ちゃんが生まれます。どんな赤ちゃんがたまごのなかで　かくれんぼをしているのか　子どもと一緒に考えながら　たのしみながら読みます。

⑤ 印象に残ったシーン

最後の絵　出ヤイル　さいごりゅうの赤ちゃんが出ヤイル　シーン　一緒　大きなたまごなので　どんな赤ちゃんが出てくるのかドキドキしました。

⑥ この本からのメッセージ（イラストや折り紙など、いろいろな素材で表現してみよう）



絵本ノート　クラス　氏名

① 絵本のタイトル　ちいさなかくれんぼ

② 1 枚目

③ 読んだ本の情報

作者（さく・え）	ながや みわ（さく・え）
出版社	福音館書店
出版年（初版）	[illegible]
対象年齢	[illegible]

④ あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）

[illegible]

⑤ 印象に残ったシーン

[illegible]

⑥ この本からのメッセージ（イラストや折り紙など、いろいろな素材で表現してみよう）

絵本ノート　クラス　氏名

① 絵本のタイトル　[illegible]

② 1 枚目

③ 読んだ本の情報

作者（さく・え）	[illegible]
出版社	[illegible]
出版年（初版）	[illegible]
対象年齢	[illegible]

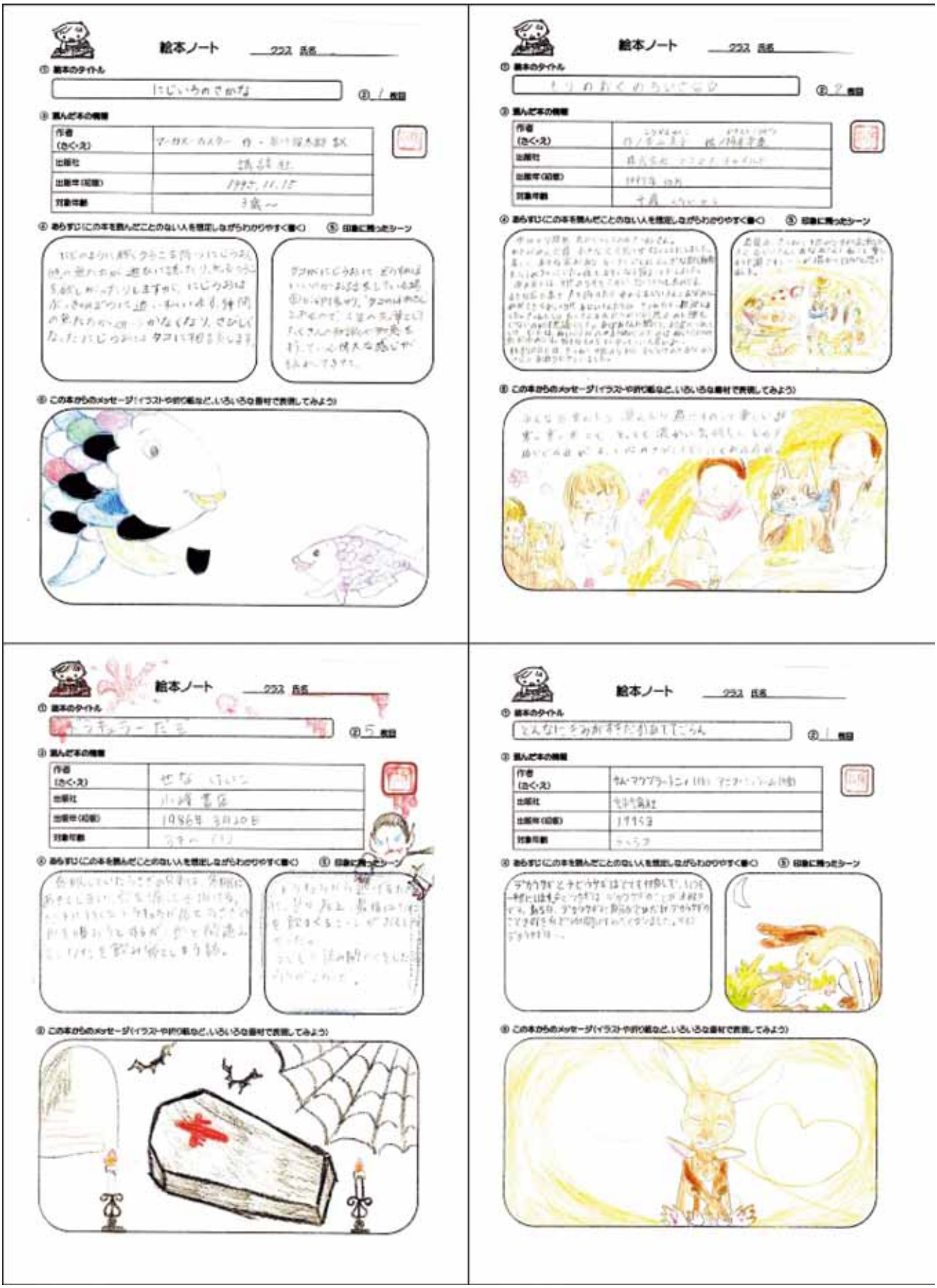
④ あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）

[illegible]

⑤ 印象に残ったシーン

[illegible]

⑥ この本からのメッセージ（イラストや折り紙など、いろいろな素材で表現してみよう）


絵本ノート
クラス 氏名
① 絵本のタイトル
② 1 枚目
③ 読んだ本の情報
作者（かく・え）
出版社
出版年（初版）
対象年齢
④ あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）
⑤ 印象に残ったシーン
⑥ この本からのメッセージ（イラストや折り紙など、いろいろな素材で表現してみよう）
絵本ノート
クラス 氏名
① 絵本のタイトル
② 2 枚目
③ 読んだ本の情報
作者（かく・え）
出版社
出版年（初版）
対象年齢
④ あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）
⑤ 印象に残ったシーン
⑥ この本からのメッセージ（イラストや折り紙など、いろいろな素材で表現してみよう）
絵本ノート
クラス 氏名
① 絵本のタイトル
② 5 枚目
③ 読んだ本の情報
作者（かく・え）
出版社
出版年（初版）
対象年齢
④ あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）
⑤ 印象に残ったシーン
⑥ この本からのメッセージ（イラストや折り紙など、いろいろな素材で表現してみよう）
絵本ノート
クラス 氏名
① 絵本のタイトル
② 1 枚目
③ 読んだ本の情報
作者（かく・え）
出版社
出版年（初版）
対象年齢
④ あらすじ（この本を読んだことのない人を想定しながらわかりやすく書く）
⑤ 印象に残ったシーン
⑥ この本からのメッセージ（イラストや折り紙など、いろいろな素材で表現してみよう）